

以上で此の篇の變光星に關する豫備的知識を終つて置かうと思ふ。書き出せばまだまだ書くことはあつて、これだけでもゆうに一冊の本になり得る位であるが、讀者も少し厭味がさして來たらうと思うから先づこの邊りで筆を擱めることにする。而して次からはこの稿の主目的たる變光星各論に移らうと思ふ。上に記した變光星の性質といふやうなものに關しては再びそこで各變光星型について詳しく記すところがあると思ふ。なほ暇にまかせて部分的に思ひ出したこと、讀んだことを書き綴たのであるから、或は二重になつたり或は前後入れちがつたりして居ることも多くあるであらうと思ふが、その點はゆるしていただきたい。

小兒辯日

古時小兒の日を辨する一事あり。列子に見ゆ。云ふ

孔子東遊せるの時兩小兒の辯鬥するを見る。その故を問ふ。一兒曰はく「我日の始めて出づる時を以て、人を去る近しとし、日中を以て遠しとす。」一兒は「日の初めて出づるを遠しとし、日中を近しとす。」一兒曰はく「日の初めて出づるや大なること車蓋の如く、日中に及べば即ち盤盂の如し。此れ遠き者小にして近き者大なるが爲めならざるか」一兒曰はく「日初めて出づるや滄滄涼涼、その日中に及べば探湯の如し。此れ近き者熱くして、遠き者涼なるが爲めならざるか」と。孔子答ふる能はず。兩小兒曰はく「孰れか汝を多智なりと謂ふ乎」 讀者諸兄如何に？

飛電

五月九日の皆蝕日食觀測の爲 スマトラへ遠征した 山本博士から下の如く大成功を報じて來た。

Eclipse well observed good corona prominence through cloud
gaps forty five photographs